

造山第1号古墳

調査期間 250305～250305

場 所 岡山市北区新庄下

遺跡の概要

造山第1号古墳(以下、第1古墳)は岡山市北区新庄下の丘陵上に位置する古墳です。全長350mの造山古墳を主墳とする造山古墳群の陪塚の1つであり、現状は径約40mの円墳です。明治期に地元の人々によって発掘され、コウヤマキ製の木棺を有する埋葬施設が存在したとされます。副葬品の中には馬形帯鉤や龍文透金具といった朝鮮半島系の資料が伝わっており、学術的にも著名な古墳です。

今回は新庄下地内における農道の敷設工事に伴い、発掘調査を行いました。調査地点は第1古墳周囲の南側から西側に位置します。

調査の概要

調査の結果、調査区内では第1古墳に伴う明確な遺構は確認されませんでした。以下に、その概要について述べます。

調査は農道敷設箇所に沿って調査区を3本を設定し進めました(T1、T2、T3)。基本的な層序としては表土、近代の造成土、地山となります。

T1では調査区の中心付近に溝状の落ち込みを確認しました。この落ち込みの埋土からは埴輪片や陶質土器片が出土しましたが、落ち込みの最下部でマルチや陶磁器といった近代の遺物が出土したことから古墳に伴う落ち込みではないと考えられます。

T2は造成土下で水平に堆積した地山が出土しましたが、古墳に伴う遺構・遺物は確認できませんでした。

T3は西方向に向かって地山が落ち込むのを確認しました。しかし、落ち込みの埋土は近代の造成土で構成されていました。おそらく、調査区西側の畑を造成した際や擁壁を構築した際に削平されたものと考えられます。

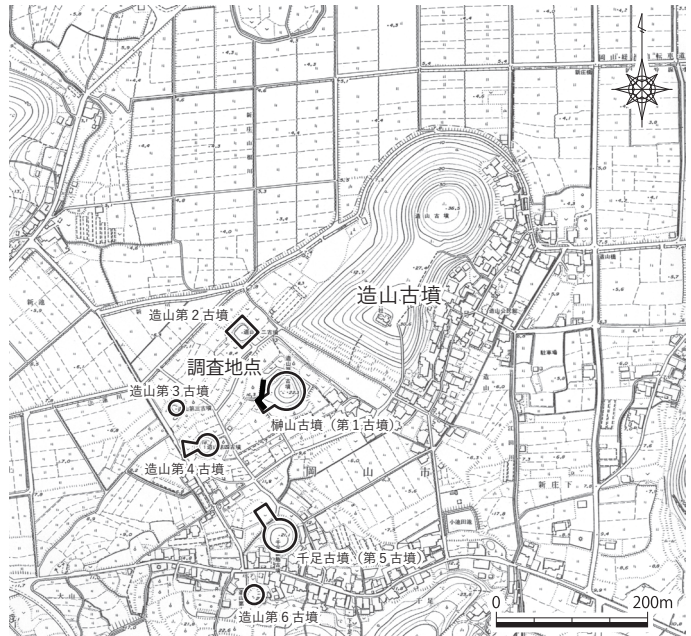


図1 造山第1古墳の位置 (S=1/10,000)

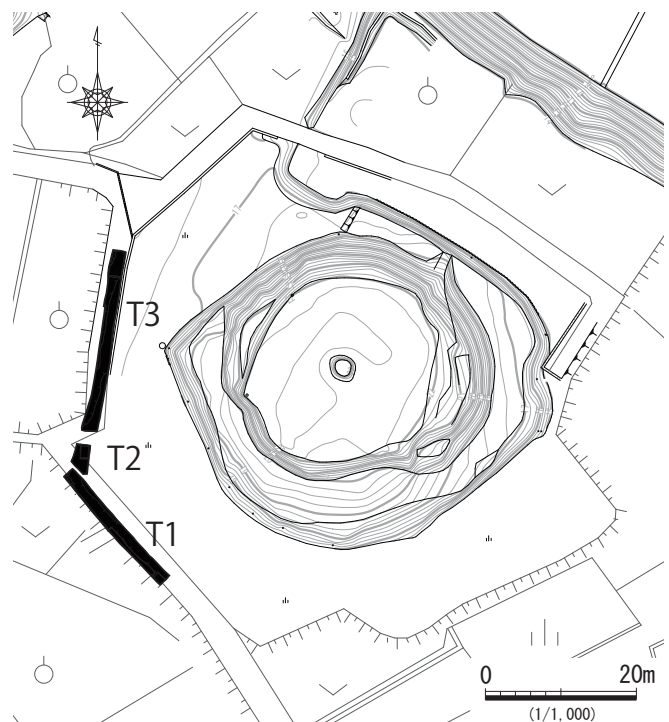


図2 造山第1古墳調査区配置図 (S=1/1,000)

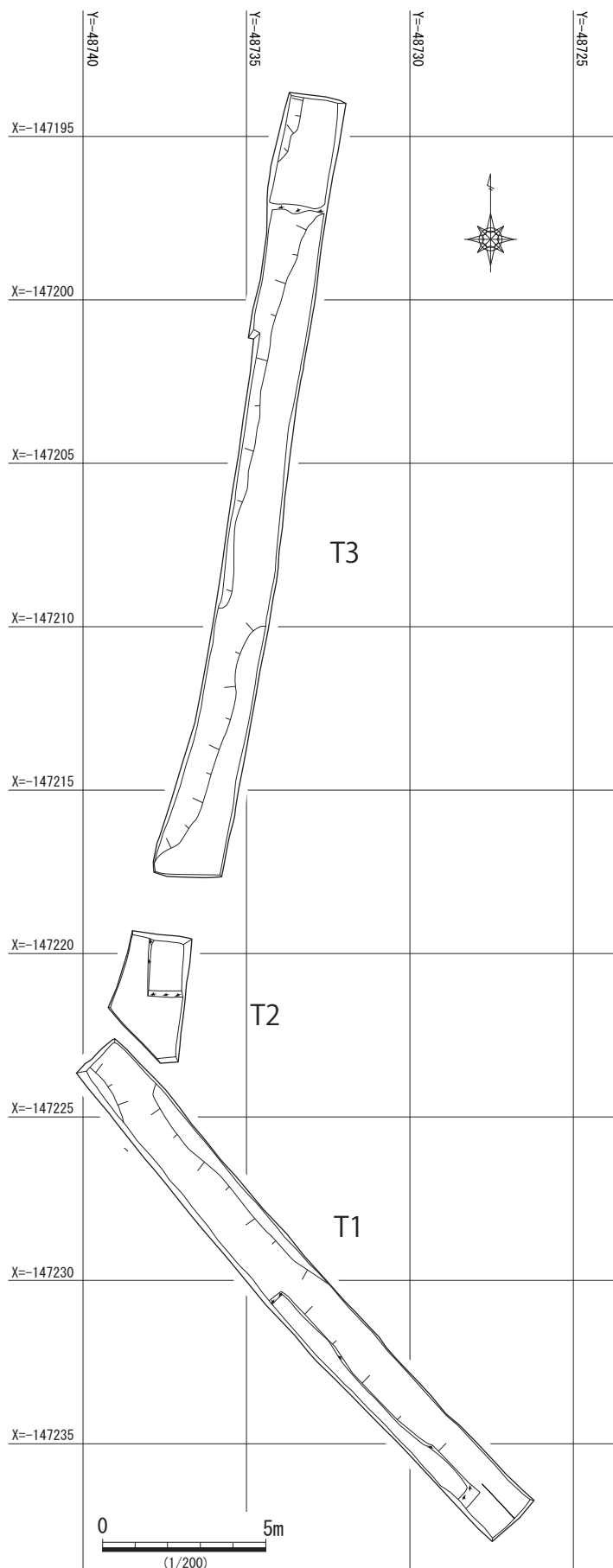


図3 造山第1古墳調査区平面図 (S=1/200)

遺物

各トレンチからは、埴輪片が出土しましたが調整等が不明瞭のため時期は判然としません。また、壺や高坏と考えられる陶質土器片も出土しましたが、小片のため詳細は不明です。図化できる資料はありませんでした。

まとめ

今回の調査では古墳に伴う明確な遺構は確認できませんでした。しかし、古墳周辺における地山面を確認できたことは、墳丘の範囲を推定する上では重要な成果です。第1古墳の今後の調査に期待したいです。

(原田 悠希)



図4 T1(北西から)



図5 T2(西から)



図6 T3(南から)